

函館工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語特講B
科目基礎情報					
科目番号	0189		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	社会基盤工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	後期:2	
教科書/教材	極める! リスニング解答力 TOEIC® L&R TEST (スリーエーネットワーク)				
担当教員	山下 純一				
到達目標					
1. 社会に出て実際に会うビジネス英語で使われている基本語彙に関する知識に習熟する。 2. ビジネスで使われるTOEICテスト550点レベル以上のビジネス表現を聞き、理解することができる。 3. 英語を英語のまま理解する処理能力のスピードをTOEICテストL&Rのリスニングパートで養うことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	TOEICテスト550点レベル以上のリスニング力を身につけることができる		TOEICテスト450点レベル以上のリスニング力を身につけることができる		TOEICテスト450点レベル以上の文法力を駆使することができない
評価項目2	TOEICテストListeningパートの問題で300点以上取る力を身につけることができる		TOEICテストListeningパートの問題で250点以上取る力を身につけることができる		TOEICテストListeningパートの問題で250点以上取る力を身につけることができない。
学科の到達目標項目との関係					
函館高専教育目標 E					
教育方法等					
概要	国際社会で活躍する技術者として必要な英語の基礎的コミュニケーション力を身につけることを目的とし、TOEICテスト550点レベル以上を目指す。そのため、500点レベルに近い基本的な語彙やリスニング力を身につけているという前提で授業を進めていく。授業は、学習到達目標を達成するために文法レベルの向上とTOEICテストのReading Part5とPart6の演習を中心に行い、語彙力も養う。				
授業の進め方・方法	1. 毎回演習形式で行う。 2. 自宅学習を大前提とし、TOEICテストListeningの問題演習を行う。 3. 低正答率問題の解説と演習を毎回行う。 4. 成績は、試験80%、小テスト・課題20%とする。 ※可能なら前倒してQ3の途中(11月)から実施する予定。				
注意点	TOEICテスト500点レベルは既に到達済みとみなして授業を進める。校内で行われるTOEIC IPテストまたは外部で行われる公式のTOEICテストを、前期中に必ず1回以上受験しておくことが前提で、500点を超えなかった場合は授業の初回までにその力を身につけるべく猛勉強しておく必要がある。本科目は学修単位(1単位)の授業であるため、履修時間は授業時間15時間と授業時間以外の学修(予習・復習、課題・テスト等のための学修)を併せて45時間である。自学自習の成果は課題及び定期試験等によって評価する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
3rdQ		1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
後期	4thQ	9週	ガイダンス ・チャレンジ Listening Part 1/2のディクテーション	授業の進め方が理解できる。 ディクテーション中心に「聞く力」を身につけることができる	
		10週	・チャレンジ Listening Part 1/2のディクテーション	ディクテーション中心に「聞く力」を身につけることができる	
		11週	・チャレンジ Listening Part 3/4基礎的な問題で問題形式を知る	基礎的な問題で問題形式を知ることができる	
		12週	・練習問題 Listening Part 1/2基礎的な問題で問題形式を知る	基礎的な問題で問題形式を知ることができる	
		13週	・練習問題 Listening Part 3/4のディクテーション	ディクテーションで、正答根拠を聞き取る力を身につけることができる	
		14週	・練習問題 Listening Part 3/4のディクテーション	ディクテーションで、正答根拠を聞き取る力をを身につけることができる	
		15週	・まとめ問題	実際の問題を用いて550点を目指すことができる。	
		16週	※学年末試験は試験期間中に実施 テスト返却・振り返り	既習事項を習熟することができ、問題で何が問われているかの判断スピードをより一層速めることができる 間違った問題の正答を求めることができる。 自分の強みと弱みを理解でき、今後の学習方法の計画を立てられる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	小テスト+課題	レポート	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0